

平成 27 年度南予地方局予算の実施状況

- 1 予算事項名 加工用果樹産地化実証事業費
- 2 事業期間 平成 26 年度～28 年度
- 3 所 管 産業経済部産業振興課産地育成室

4 事業概要

宇和島市、松野町、鬼北町及び JA えひめ南は、農家の新たな収入源とするため吉兆庵と加工用果樹の原材料の調達源等に関する連携協定を締結し、高級和菓子の原材料となるクリやモモ、ビワ、カキなどの加工用果樹の産地化に向けた取り組みをスタートさせた。そこで、加工に適した品種の選定や高齢者でも栽培に取り組める省力化の現地実証を行い、加工用果樹の産地化を支援した。

	平成 27 年度
予算額	1,549 千円

5 27 年度の事業実施状況

(1) クリの省力的安定生産技術の実証

① 雑草防除及び収穫作業省力化の実証

H27 年 6 月から H28 年 2 月末にかけて羊の放飼を行い、地域での飼育適応性と除草効率を検証。9 月 20 日からは収穫ネットを設置し収穫作業の省力化を実証した。

その結果、羊はクローバー等 10～15cm の短い草を好み、1 日に約 5～8 kg (生草重) を食し、除草作業の省力化になった。また収穫ネット利用では傾斜地で約 7 割、平場では約 6 割、収穫作業が省力化した。

② 低樹高栽培による省力化技術の実証

「筑波・紫峰・銀寄・石鎚」の 4 品種を樹高 2.5m 以下の低樹高栽培に樹形改造を行い、改造前(H26 年)の収量と比較した。その結果、収量は 10～20% 減少したが、防除や選定などの作業性が向上した。また勢いのよい新梢が発生し、樹が若返った。次年度は収量の回復が見込める。果実重に差は見られなかった。

(2) 新たな加工用果実の実証(オウトウ(さくらんぼ)、西洋ナシ、モモ)

① 加工用果樹の適応性実証

オウトウ(さくらんぼ) 4 品種 12 本、西洋ナシ 4 品種 12 本、モモ 3 品種 12 本、カキ 2 品種 3 本、計 39 本の苗木を導入した。早期結実を目指し栽培管理を行った結果、市田柿が初結果し、加工(つるし柿)実証をした。オウトウ、西洋ナシ、モモも花芽を確認した。

(3) 連携協定推進連絡会の開催

① 生産計画の検討、試食会等により適品種選定等

関係機関で構成する指導班会を年 3 回開催し、生産指導体制や指導内容を協議した。(株)吉兆庵連携協定推進協議会や加工研修会及び供給果実等試食会等で生産計画を検討推進した。

② 農産物安定供給体制の推進

(株)源吉兆庵に供給くり・もも生産振興会議 5 回開催され、くり・ももの生産支援、また、かき・びわ生産振興会 3 回開催され、かき・びわの生産振興を進めた。

③ 加工用農産物供給産地事例調査

北部農業研究センターでサクランボ及び西洋ナシの栽培研修を実施した。また、岐阜県恵那市のクリ振興事例及び鳥取県の農商工連携事例を調査した。

羊の飼育【5-(1)-①】



若羊でも生草 5 kg/日食べる

ベタ掛け収穫ネット【5-(1)-①】



傾斜があればクリは、
下まで転げる

低樹高「筑波」【5-(1)-②】



樹高 2.5m にせん定

サクランボ(正光錦)、モモ(大久保)【5-(2)-①】



初めての花が咲いた



市田柿栽培研修会【5-(3)-①】



連携協定推進連絡会(試食会)【5-(3)-①】

